



こんどう きよし 近藤 聖 議員

## 問 新大橋建設の方向性は

## 答 町のランドマーク的施設に

### 新大橋の建設

**議員** 建設の意義と建設後のまちなかへの誘客を、どのように考えているか。  
**町長** 大橋の老朽化に伴う架け替え工事で、地域の景観的・心理的シンボルとして整備し、新たな観光客を呼び込み交流人口を増やすようなランドマーク的施設として位置付けている。

また、屋根付き木橋にすることで林業の町をアピールしたい。さらに、「親水・散策空間」や「飲食・買い物空間」の整備を加えていく予定であり、DMO事業「くずまき観光地域づくり協議会」や「まちなか活性化協議会」などと連携を強化して誘客・集客を図りたい。  
**議員** 町民への発表や説明が、遅かったのではないかと。  
**町長** 建設計画の検討、



葛巻小学校の空き教室を活用した郷土資料館

の内容及び喫煙所設置の是非について伺う。

参考施設の視察、屋根付き木橋の方向性、関係諸機関との調整など、着実に進めてきた。  
建設の可能性が確定するまで、新規補助事業申請などの財源確保に時間を要し、発表の時期に遅れもあった。今後、事前の収集も図りながらしっかりと進めたい。  
**議員** バリアフリー対策

### 新庁舎の設備

**町長** 子育て世代・乳幼児や女性に配慮したスペースの確保、高齢者や障がい者が安全に移動できるフラットフロア、多目的トイレの各階への設置など、全ての人が快適に利用できるユニバーサルデザインを採り入れた設計を心掛けた。  
喫煙所は、建物内には設置しない考えであるが

### 文化財保護の課題

屋外については、施設周辺の状況や利用者の実態を踏まえて、今後検討していきたい。  
二カ所の資料館では、小学校社会科などの見学希望があり、文化財保護委員の協力を得て活用し、努めている。  
**議員** 町内の文化財保護や資料館の活用などは適切か。  
**町長** 「教育行政評価委員会」では、一定の評価を

資料館の専門の学芸員は、施設規模や役場の職員体制などを踏まえ、配置はしない考えである。役場新庁舎内の図書館には、利用活動を支えるコンシェルジュの配置を考えている。  
美術館・資料館・文化会館などの文化施設整備計画は、当面考えていない。



やまざき ひろき 山崎 邦廣 議員

## 問 公共施設を更新後の財政は

## 答 財政運営の安定と持続を構築

### 施設整備と財政運営

**議員** 老朽化が著しい公共施設を更新した後の、財政運営の基本方針を伺う。  
**町長** 町の公共施設の多くは、昭和40年代半ば以降に集中して整備され、老朽化により大規模修繕や更新が必要な施設が増えている。

平成21年度に「公共施設等整備基金」を創設して財源確保に努め、国庫補助事業や有利な地方債も活用し、病院や学校などの大規模な普通建設事業を実施してきた。

現在は定住促進住宅、自治公民館などの新たな行政ニーズの整備も加わり、平成27年以降は普通建設事業費の決算額が10億円を超える状況が続いている。

新庁舎の整備や大橋の架け替えなどに着手して

おり、地方債の借入残高は4年度には110億円程になる見込みで、9年度の一般会計の元利償還金は本年度の約2倍、12億円程になると推計している。

町の基礎的財政収支は、平成27年度以降、地方債の借入額が地方債の償還額を上回る状態で、その主な要因は大規模な公共施設の整備・改修によるもので、3年度までこの状態が続く見込み。

大型の整備事業については、中長期的な計画により、事業の選択と集中をより一層強化し、時代に即した行政サービスの提供と、財政負担の平準化に努めていかねばならないと考えている。

安定的かつ持続可能な財政構造の構築には、「安定的な財源確保」「実施事業最適化による将来負



茶屋場地区に整備された若者定住住宅

担の抑制」「適正な財源配分による事業効果の最大化」が重要となる。

「安定的な財源確保」では、町の魅力を強化し町民所得の向上を図り、町税などの自主財源の確保につなげるほか、交付税・補助金・地方債などの確保も取り組んでいく。

「実施事業最適化による将来負担の抑制」では、事業の選択と集中により、実施事業の取捨選択を、また「適正な財源配分による事業効果の最大化」

では、限られた財源の最適配分により、最小の経費で最大の効果が発現されるよう取り組んでいく。

職員の見直しによる人件費の抑制、将来負担を考慮した事業選択による公債費の管理、効率的な行政運営によるコスト抑制など、歳入規模に応じた歳出の編成で、身の丈にあった財政規模を堅持し、将来を見通した総合的な対策により、持続可能な財政運営に努めていく。